

自動運転社会実装推進事業について

1 事業内容

本市では令和５年度及び令和６年度に自動運転バスの実証運行を行い、自動運転技術の向上とともに、定時定路線運行における自動運転化の検証や自動運転バスに対する社会的受容性の調査などを行ってきた。この度、国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）の採択を受けたことにより、令和７年度の自動運転バス実証運行を実施する。

令和7年度は新たな試みとして、名鉄バス株式会社が主体となり、東海地区の市街地では初となる、いすゞ自動車株式会社が開発した大型路線バスを使用し、東岡崎駅と岡崎駅間の既存バス路線と同一経路・同一停留所による実証運行を行う。

昨今の運転士不足を理由とした減便等によるバス路線の維持が難しい状況の中、本市では、名鉄バス株式会社と包括連携協定を締結してバス路線の維持・充実に取り組んでおり、これまでに外国人運転士の採用に関する連携などを実施してきた。さらなる取組として、本市と名鉄バス株式会社は令和7年度の実証運行に関するコンソーシアム（代表団体：岡崎市）を結成しており、運転士不足に対する解決策となり得る「自動運転バスの社会実装」に向けた連携を図ることで、将来にわたって本市のバス路線の維持や充実を図ることを目指していく。

2 採択内容

地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）

- ・補助率：4/5
- ・補助金交付上限額：6,340万円（事業費総額：7,925万円）

3 運行予定ルート

名鉄東岡崎駅停留所（南口）～ＪＲ岡崎駅停留所（東口）間を
既存のバス路線と同一経路（県道483号線：通称「電車通り」
片道：約3.5km）・同一停留所をレベル２で運行



No	停留所名
1	名鉄東岡崎駅(南口)⑬
2	明大寺町④
3	国立研究所下
4	芦池橋
5	電車通り銭堤④
7	戸崎町(北)
8	戸崎町(南)
9	戸崎口
10	岡崎市シビックセンター
11	JR岡崎駅(降車)

No	停留所名
11	JR岡崎駅③
10	岡崎市シビックセンター
9	戸崎口
8	戸崎町
6	電車通り銭堤(南)③
5	電車通り銭堤(北)①
4	芦池橋
3	国立研究所下
2	明大寺町⑤
1	名鉄東岡崎駅(降車)

4 主な検証内容

- ・自動運転レベル2の運用における走行の安定性の確認
- ・将来的なレベル4の実装を見据えた、運行オペレーション及びビジネスモデルの検討
- ・地域における自動運転に対する社会受容性の把握

5 参画団体（本実証運行を実施する団体の一部）

名鉄バス株式会社	事業総括・保安ドライバー派遣・バス運行管理
名鉄グループバスホールディングス株式会社	運行業務支援・体制整備
A-Drive 株式会社	全体統括支援・社会受容性調査・ ビジネスモデル検討
アイサンテクノロジー株式会社	三次元地図データ作成・実証支援・技術協力
岡崎市	実施主体・実証の地域連携・広報

※岡崎市と名鉄バス株式会社は令和7年度の実証運行に関するコンソーシアム（代表団体：岡崎市）を結成

6 実証運行予定時期

- ・令和7年11月～12月
- ※11月は主に調律や試験運行、12月に市民等を対象とした試乗を実施予定

7 使用車両

車両名	エルガ
車両メーカー	いすゞ自動車
自動運転システム開発事業者	ティアフォー
乗車定員	64名（自動運転時24名）
自動運転時の最高速度	40km/h



8 社会実装に向けた取組

(1) 令和5年度

QURUWA地区の交通渋滞緩和を目的として、当地区への来街者にパークアンドライドを提供するため、市役所～籠田公園～図書館交流プラザりぶら間におけるレベル2^{※1}での実証運行を実施。

(2) 令和6年度

イベント時に大量の移動需要への対応が必要な区間である、東岡崎駅～岡崎市役所～岡崎げんき館前～中央総合公園におけるレベル2での実証運行及び中央総合公園の駐車場にてレベル4^{※2}相当での実証運行を実施。

(3) 令和7年度

いすゞ自動車(株)製の大型路線バスを東海地区では初めて使用して、本市の公共交通軸である「東岡崎駅～岡崎駅」間において、自動運転バスの先行導入を目指し既存バス路線と同一経路・同一停留所によるレベル2での実証運行を実施。

(4) 令和8年度以降

令和9年度中の公道でのレベル4運行を目指し、名鉄バス(株)と継続的な実証運行を実施予定。

^{※1} アクセル・ブレーキ操作およびハンドル操作の両方が、部分的に自動化された状態。（運行操作の主体は「運転者」）

^{※2} 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態。（運行操作の主体は「自動運行装置」）